

2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
21112	生活と法律 Law in Daily Life	漆畑 貴久			2	選択	2後期

科目の概要

本授業は、法律が社会生活に関わる場面とその関わり方について学ぶ。ここでは、法律が社会において機能する場面について具体的に理解すること、社会に生じる問題の具体例として犯罪を取り上げ、それに対する法律による解決・対応の方法について知ること、及び契約書を読み、問題が生じた場合の解決の方法を発見できるようになることを目指す(ディプロマ・ポリシー②、④、及び⑥に相当する)。これらを達成するために、受講生がそれぞれの法律(法)に関する基礎的な知識を修得し、生活に関わる法律(法)の仕組みと役割を深く理解し、さらに身近に起こる社会問題を解決する力を身につけることを目標とする。授業予定は「授業計画」に示した通りであるが、受講生の理解の程度やテーマの重要性との関係から、変更される場合がある。

学修内容	到達目標
① 法律が社会生活において機能する場面と機能の方法等について理解する。 ② 社会に生じる諸問題の具体例として、犯罪とそれに対する法律について学ぶ。 ③ 契約書を読み、問題が生じた場合の解決策を発見して説明できるようになる。	① 法律が社会生活において機能する場面と機能する方法等について概要を説明することができる。(ディプロマ・ポリシー②、⑥) ② 自身の周囲で生じる諸問題の解決に向けて、法的観点から積極的に取り組むことができる知識を備え、問題を解決することができる。(ディプロマ・ポリシー②、④、⑥) ③ 法律に関する専門用語を、意味を理解した上で適切に使用することができる。(ディプロマ・ポリシー②、⑥)

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	率先して、日頃からルール(法)への理解を深めるよう、身の回りの情報を意識することができる。
	働きかけ力	
	実行力	身近な法(ルール)について、自身の日常生活で実践できる。
考え抜く力	課題発見力	身の回りの場面で、具体的にひそむ問題・課題を発見することができる。
	計画力	
	創造力	課題・問題のよりよい解決法が他にある場合、それに気づくことができる。
チームで働く力	発信力	与えられた課題やテーマにつき、自身の考え方を組み立て示すことができる。
	傾聴力	授業内容や他の学生とのやり取りに対し真摯に耳を傾け、その場や授業後の協働につなげることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行できるようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

・テキスト：使用しない
 ・参考文献：適宜紹介する
 なお、授業に際してはレジュメを配布する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：社会福祉概論

学修上の助言 **受講生とのルール**

ニュース等を参照して、社会に生起する諸問題について関心を持つことができるようになることを意識することが望ましい。

・授業並びに他の受講生の学修を妨げることをしない(履修態度が劣悪と判断した受講生には、退席・出席停止等の措置をとる)。
 ・授業内での担当による発問に対して解答してくれた受講生については、能動的学修態度として最終評価に加点する。
 ・授業内容に関する質問は、授業前後の担当者が対応可能な時間帯に適宜受け付けるが、Google classroom等でも受け付ける(ICTの活用)。なお、質問内容とその解答は、適宜、授業内でフィードバックする。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標			各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
	平常評価	小テスト		50	①	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了前にテーマを提示するので、受講生はリアクションペーパーを作成し、次回授業の際に提出する。 ①授業で学修した内容について適切に理解・把握できている。 ②学修内容に基づいて、私見の提示を含む記述がなされている。 ③授業で学修した用語を適切に使用している。
					②	✓		
					③	✓		<ul style="list-style-type: none"> 以上①～③の観点について、適切に理解・説明できているものをA評価、ほぼ理解・説明できているものをB評価、ある程度理解できているとみなされるものをC評価とする。
								pisa型学力評価 ・獲得：授業で学修した内容について正確な知識を獲得している（40%） ・活用：社会に生じる事象を授業で獲得した知識・観点から考察している（30%） ・解決：根拠のある説得力を持った私見を提示している（30%）
		レポート		40	①	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・生活と法律に関する学修に基づいて受講生が自らテーマを設定し、教科書、配布資料、あるいはその他の資料を検討してレポートを作成して提出する。 レポートの評価に際して重視する観点は以下の通り。 ①法律が社会生活に関わる場面について適切に把握し、説明できている。 ②社会生活において生じる諸問題に対して、法的観点から取組むために必要な知識を備えている。 ③学修した用語を適切に使用している。
					②	✓		
③					✓		<ul style="list-style-type: none"> 以上①～③の観点について、適切に理解・説明できているものをA評価、ほぼ理解・説明できているものをB評価、ある程度理解できているとみなされるものをC評価とする。 	
							pisa型学力評価 ・獲得：授業で学修した内容について正確な知識を獲得している（40%） ・活用：社会に生じる事象を授業で獲得した知識・観点から考察している（30%） ・解決：根拠のある説得力を持った私見を提示している（30%）	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）			0	①				
				②				
	③							
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓		上記レポート及びリアクションペーパーの作成の際、その取組み姿勢において、以下の点を考慮する。		
			②	✓		①社会に生じる諸問題について憲法の観点から関心を向け、憲法の知識を用いて対応しようとする意思に基づいて行動できる。（主体性、実行力）		
			③	✓		②社会に生じる諸問題を憲法の観点から考察できる。（課題発見力、創造力）		
						③正確な言葉遣いを通して、自身の考えを発信するとともに、他者の意見に真摯に聞くことができる。（発信力、傾聴力） ④遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。（規律性）		
総合評価割合		100						

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
授業で学修した内容につき、レポート、リアクションペーパー、及び社会人基礎力（学修態度）を総合的に判断して、90%相当の理解を確認できた場合S（秀）と、そして80%相当の理解を確認できた場合をA（優）と評価する。90%相当とは、(1)法が社会に関わる場面とその関わり方に関する基礎的知識について修得していると認められる（用語や論点）説明ができていて、(2)その知識に基づいて社会に生じる諸問題について法律・法学の観点から問題点を指摘し、解決のための方策のあり方について考察し、そしてその問題に対して自分なりの意見を正確な言葉遣いを用いて説得力をもって表明できていると評価できる場合をいう。A（優）は、上記（1）または（2）のいずれかがまだ十分とはいえないが、法が社会に関わる場面とその関わり方に関する知識を用いて問題点を指摘し、解決のための方策について考察し、そして自身の意見を正確な言葉遣いを用いて表明できていると評価できる場合をいう。	授業で学修した内容につき、レポート、リアクションペーパー、及び社会人基礎力（学修態度）を総合的に判断して、(1)法が社会に関わる場面とその関わり方に関する基本的な内容について説明することができ、(2)社会に生じる諸問題について、その知識に基づいて、説明して自身の意見を的確に明示することができる場合、B（良）に達したものと判定する。上記(1)と(2)につき、レポート、リアクションペーパー、及び社会人基礎力（学修態度）等を全体的に考慮し、平常の学習内容の取組みをしていたものと確認できる場合、C（可）と判定する。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	・オリエンテーション(授業方法、評価方法等の説明) ・交通事故の事例を取り上げ、法律の社会へのかかわり方等について概観する。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求め、対話方式の授業を行う。	授業概要について把握している。交通事故において生じる「責任」の種類について説明できる。	(予習)「Yは自動車を運転中、誤ってAをはねてAに重傷を負わせた。…Yはどのような責任を負担するのか。」について自分なりに考え、疑問点を持っておく(詳細は授業レジュメにて紹介する)。 (復習)レジュメを参照しつつ授業での学修内容をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	・交通事故の事例を取り上げ、法律の社会への関わり方等について概観する。 ・交通事故をもとに、他人に害を及ぼしたものに對する法的対応(そのうち、刑法による対応)の概要について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求め、対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	交通事故を例に挙げて、故意又は過失の場合における刑事責任(成立する可能性のある犯罪)を指摘できる。	(予習)レジュメを参照して、疑問点を持っておく。 (復習)授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	・交通事故の事例を取り上げ、法律の社会へのかかわり方等について概観する。 ・交通事故をもとに、他人に害を及ぼしたものに對する法的対応(そのうち、民法による対応)の概要について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求め、対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	授業で取り上げた交通事故を参考に、2つの損害賠償責任の方法について説明できる。	(予習)レジュメを参照して、疑問点を持っておく。 (復習)授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	家庭生活と法① ・結婚や出産等の生活場面に法律がどのように関わるのか、その概要について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求め、対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	「結婚」と「婚姻」、あるいは「嫡出子」と「非嫡出子」等の法律で用いられる言葉(専門用語)の違い・意味について説明することができる。	(予習)レジュメを参照して、疑問点を持っておく。 (復習)授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	家庭生活と法② ・相続とは何か、その法律上の制度の概要について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求め、対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	「法定相続分」の仕組みについて説明できる。	(予習)レジュメを参照して、疑問点を持っておく。 (復習)授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	犯罪と法① ・ストーカー犯罪の現状と対策について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求め、対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	ストーカー犯罪の問題点を自分なりに指摘できる。	(予習)レジュメを参照して、疑問点を持っておく。 (復習)授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	犯罪と法 ・児童虐待の現状とその対応について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求め、対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	児童虐待にはどのような方法(類型)があるのかを説明できる。	(予習)レジュメを参照して、疑問点を持っておく。 (復習)授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	犯罪と法③ ・配偶者間暴力の現状と対応について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求め、対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	配偶者間暴力にはどのような方法があるのかを説明できる。	(予習)レジュメを参照して、疑問点を持っておく。 (復習)授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	犯罪と法④ ・交通犯罪の現状と対応について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	交通犯罪の特徴とその対策の特徴について説明できる。	(予習) レジュメを参照して、疑問点を持っておく。(復習) 授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	犯罪と法⑤ ・薬物犯罪の現状と法的対応について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	薬物犯罪対策の基本的な考え方を説明できる。	(予習) レジュメを参照して、疑問点を持っておく。(復習) 授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	財産と法① ・賃貸借契約について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	賃貸借契約に示された賃料、借主・借主の「すべきこと」・「することができること」について把握している。	(予習) レジュメを参照して、疑問点を持っておく。(復習) 授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	財産と法② ・売買契約について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	売買契約で示された「契約の目的」、売買代金・利息、遅延損害金等のルールについて把握している。	(予習) レジュメを参照して、疑問点を持っておく。(復習) 授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	財産と法③ ・不動産売買契約について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	不動産売買契約で示された「契約の目的」、売買断金・利息、遅延損害金等のルールについて把握している。	(予習) レジュメを参照して、疑問点を持っておく。(復習) 授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	財産と法④ ・金銭消費貸借契約について学ぶ。	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。	金銭消費貸借契約で示された返済時期・返済方法、利息、「期限の利益」について把握している。	(予習) レジュメを参照して、疑問点を持っておく。(復習) 授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	財産と法⑤ ・労働契約について学ぶ。 授業のまとめ	講義方式で行う。適宜、担当者が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。リアクションペーパーの記載等に基づいて必要なフィードバックを行う。授業のまとめを行う。	労働契約に示された労働条件(就業時間、賃金、休日・休暇、時間外労働とその手当等)について把握している。	(予習) レジュメを参照して、疑問点を持っておく。(復習) 授業での学修をもとに、特に疑問点を解消できたかを中心に復習する。新しく知った言葉については、その意味や使い方等について確認する。リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力